

IV-38

車いす利用者の外出意識と整備要望の把握に関する研究

近畿大学理工学部 正会員 ○北川博巳

近畿大学理工学部 正会員 三星昭宏

近畿大学大学院 学生員 岡本英晃

1.はじめに

近年、道路構造令の改正では車いすの通行性を考慮に入れており、歩道整備を始めとして、車いす交通を考慮した基盤整備の重要性は高まっている。また、車いす利用者をはじめとする障害者の移動性を考慮した道路対策は重要な課題とされている。しかしながら、外出時において、車いすの移動性は決して良いものとは言えず、整備・検討する項目も多く挙げられ、重視する整備項目の強さの度合もわからない現状にある。これらの項目は車いす利用者の外出需要を妨げている要因と考えられ、潜在的な外出需要を顕在化させるような対策は急務である。この研究は車いす利用者にアンケート調査を実施することで、現在の外出頻度の違いを軸として、車いす利用者の交通時に関する問題点の把握、外出環境の評価、および整備要望について把握することが目的である。

2.調査の概要

アンケート調査は大阪脊椎損傷者協会の協力を得て、平成8年12月に実施された。質問項目として、性別・年齢・車いす利用歴等の個人属性、現在の外出状況と交通機関に関する問題点、および外出環境の整備希望の順位とそれらの整備により、外出需要が増加するかについてを回答してもらった。調査票は298枚郵送により配布し、141枚を回収することができた（回収率47.3%）。サンプルは男性が多いが、年齢は20歳～70歳まで幅広く回収することができた。

3. 車いす利用者の外出意識の特徴

図-1は日常生活における外出回数について「多い」、「ちょうどよい」と回答した層と「少ない」と回答した層とに分割し、歩道・交通機関・ターミナル・運賃に関して問題点が多いと思われるものに順位をつけてもらい、1位と答えた割合を集計したものである。ここでは、車いす利用者が日常で外出が「少ない」と感じている層は歩道整備に関して問題点を感じており、一方で、日常生活において外出が「多い」と感じている層はバス・鉄道等の交通機関に関して問題点を感じている。つぎに、外出の少ない層の歩道に関する問題点を図-2に示す。ここでは、「溝ふたによる車輪の問題」、「歩道の障害物・傾斜・幅員」、および「路面の凸凹」に問題を感じている。図-3は外出の多い層における歩道の問題点を示す。図-2と違い、人や自転車とのすれ違いについて問題を感じている割合が高く、外出の低い層と高い層との違いを表している。つぎに、外出が多いと

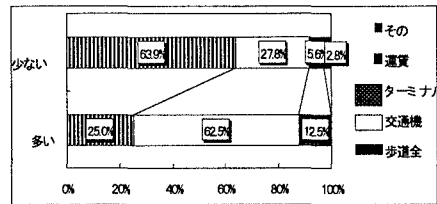


図-1 外出層別の問題点(順位1位)

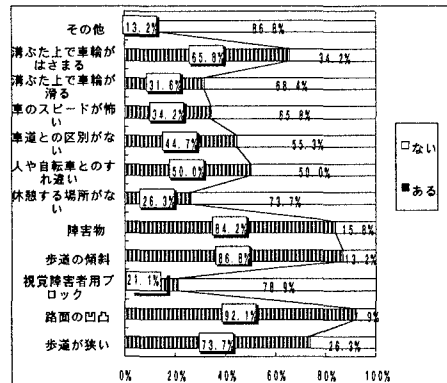


図-2 歩道における問題点(外出の少ない層)

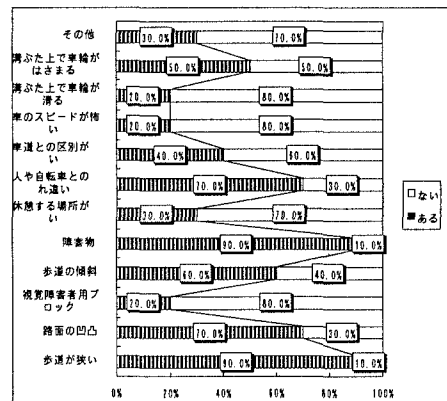


図-3 歩道における問題点(外出の多い層)

感じている層を対象にバスの問題点を図-3に、同様に鉄道に関する問題点を図-4に示す。バスについては「乗降時の段差」について問題を感じており、鉄道については乗車時だけでなく、車両内、駅舎内等広範にわたる問題が多い。

4.車いす利用者の交通整備要望

車いす利用者にとって、移動環境の整備がなされる際に、具体的項目としてどのような要望を持っているのかを把握するために、表-1に示す項目に対し、整備希望順位をつけてもらった。そして、その整備が外出の増加につながるのかについての評価を見ることで、今後の整備方策について考察する。まず、表-1の左側は順位に対して1位を9点、2位を8点…と得点化し、各項目に対して人数分を合計した値を示す。これによると、「路面の凹凸をなくす」、「路上の障害物をなくす」、「交通機関を改善する」といった、段差の解消をはじめとする、車いす利用者にとっての身近な移動の快適性を向上させるような施策の整備が望まれていることがわかる。

つぎに、この表の右側は車いす利用者のモビリティ環境の向上という観点から整備重要度を知るために、各施策に対する順位の得点に対して、整備されることで外出が増加すると答えた場合を×1、増加しない場合を×0、わからない場合を×0.5とし、人数分を足し合わせた評価結果を示す。これにより、車いす利用者にとって、モビリティ環境を向上させるような整備として、「交通機関の改善」、「利用しやすい公共施設の整備」、「路面の凹凸をなくす」の順になっており、快適性の向上よりはむしろ、交通をする上での一体的な整備が潜在的な交通需を顕在化させるものと思われる。

4.おわりに

本研究は今後増加するであろう、車いす利用者を対象に外出回数の多少を軸として、外出の特徴と交通整備要望度について把握をした。これより、外出が多いと感じている層は交通機関に問題があり、少ない層では歩道整備について何らかの問題を感じていることがわかった。また、外出の多い層と少ない層とでは、歩道に関する意識問題に違いが生じており、今後も詳細に見てゆく必要がある。車いす利用者にとって整備して欲しい項目としては、歩道等の快適性を高める策を望んでいる。また、交通需要を活性化させる意味では、交通機関の改善および、利用しやすい公共施設の整備が挙げられた。従来も整備要望調査は各地で実施され、車いす利用者の整備要望の把握がなされている。しかしながら、整備要望が満たされることと、外出の需要増加とは別問題であると推察される。今後はモビリティの向上と整備要望との2点について着目することが必要であると考えられる。車いす利用者の交通需要を増加させるためには、段差の解消はもとより、ボランティアの育成等も課題として含めた交通システムとして捉えた整備問題として考えてゆく必要があるため、より項目を増やし、種々の観点を考慮に入れた福祉基盤整備問題として考察してゆきたい。

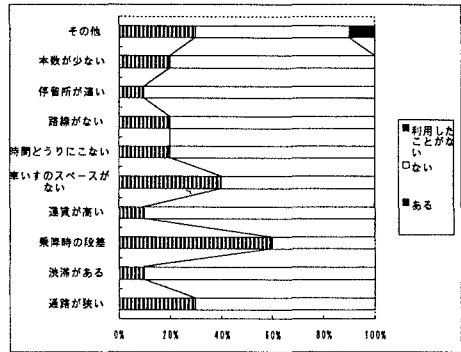


図-4 バスに対する問題点（外出の多い層）

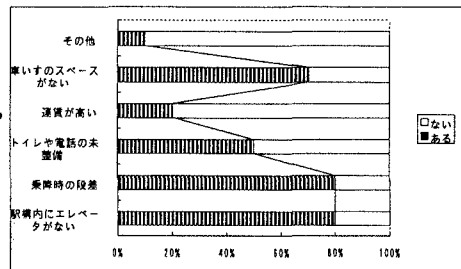


図-5 鉄道に対する問題点（外出の多い層）

表-1 整備要望度の評価

	順位得点	順位	外出増加得点	順位
歩道幅員を広げる	896	⑤	421.5	⑤
路面の凹凸をなくす	821	③	543	③
路上の障害物をなくす	782	②	516	④
交通機関の運賃の値下	291	⑧	177.5	⑧
交通機関の改善	735	④	656	①
公共施設を利用しやすく	712	④	560.5	②
介助者の増加	475	⑥	377	⑥
援助金の配付	442	⑦	305	⑦
その他	189	⑨	86.5	⑨